

令和5年度 第1回 立川市史編さん委員会 会議録（要旨）

開催日時 令和5年8月8日（火） 午後1時30分～午後3時30分

開催場所 たましんR I S U R Uホール第一会議室

出席者 [委員] 小林尚子 ◎白井哲哉 杉山章子 鈴木功 豊泉喜一
○檜崎茂彌 保坂一房 和田哲

（◎委員長、○副委員長、50音順、敬称略）

[事務局] 産業文化スポーツ部長 井上隆一、市史編さん室長 轟誠悟、
市史編さん係長 新藤博、鳥越多工摩、朝比奈新、武田真幸、
高野宏峰、渡邊皓太郎、黒河内貴光、鈴木啓太、山下祐香理

傍聴者 なし

あいさつ

産業文化スポーツ部長あいさつ、議長あいさつ、市史編さん室係長着任のあいさつ。
会議は原則公開とする。傍聴人なし。

<報告>

① 専門部会活動報告及び活動予定について（資料1）

事務局より資料番号1に基づいて説明があり、質疑を行った。また、調査・編集に関する要望が挙げられた。

【主な質疑】

・(質問)古代・中世部会の板碑調査について質問がある。立川市歴史民俗資料館所在の経文が書かれた板碑について、調査成果があれば知りたい。

→(回答)立川市歴史民俗資料館所蔵の板碑について、『本編 通史』で多摩地域の板碑と関連させながら考察していく予定である。

・(質問)民俗・地誌部会の『資料編 砂川の民俗』について、祭礼関係調査はいつ頃まで開催したものが反映されるのか知りたい。既に前回開催分を調査しているのであればよいが、もし今年開催分が間に合えば掲載してほしい。

→(回答)今年の秋に実施される祭礼の調査は実施するが、その成果が『資料編 砂川の民俗』に反映されるかは担当執筆者との相談次第である。紙面の都合上、『別編 民俗・地誌編』への掲載も検討している。

2. 令和5年度刊行予定の資料編「写真集」の進捗について（資料2）

事務局より資料番号2に基づいて説明があり、質疑を行った。また、調査・編集に関する要望が挙げられた。

【主な質疑・要望】

・(質問)巻末資料に歴史的なできごとをまとめた年表があるとよいのではないかと。

→(回答)巻末資料に年表（明治期頃から）を入れる予定である。

・(要望)河川の項目について、村の形成において重要な役割を担った殿ヶ谷分水や芋窪新田分水などもきちんと言及してほしい。

・(質問)市民公募で集まった写真資料が140点あるとのことだが、キャプションにそれが分

かるような情報を入れる予定はあるか。

→(回答)巻末に掲載写真資料目録を作成し、そこに一覧で提供者の名前を掲載する予定である。写真を見る時に目に入る情報として分けておくべきと考えたため、巻末に別立てとする。

3. 新編立川市史頒布状況（有償分）について（資料3）

事務局より資料番号3に基づき説明し、令和5年度編さん室の販売分8冊は令和5年5月27・28日に開催された歴史学研究会大会で書籍展示をした際に販売した分であることを補足した。

【主な要望】

・(要望)旧立川市史は刊行から何年ほど販売したのか把握しておいてほしい。旧立川市史の販売期間と販売実績は今後の参考になるかと思う。

4. 「市史だより（第16号及び第17号）」の発行について（資料4）

事務局より資料番号4に基づいて説明した。

5. 令和5年度市史編さん関連講演会について（資料5）

事務局より資料番号5に基づいて説明し、令和4年度講演会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止として最大収容人数の半分での募集であったが、今年度は施設管理と調整しながら対応する予定であることを報告した。

6. 砂川旧家の資料調査について（資料6）

事務局より砂川旧家調査について中間報告を実施した（資料省略）。

7. 新編立川市史本編（通史）について（資料7）

事務局より資料番号7に基づき体裁案について説明し、他自治体史の実物と比較しながら検討した。また、箱やビニールカバーなどの外装についても意見を交わした。

【主な質疑・要望】

・(質問)縦書きは決定事項か。また、段組みが1段の場合は読みにくい印象がある。

→(回答)基本的に縦書きで統一する。段組みは2段が多数派であるが議論すべき項目である。他自治体史では1段の事例もある。

・(質問)専門用語の注釈やルビは付けるのか。

→(回答)難解な用語に関しては脚注やルビを付ける予定である。

・(質問)2段組みは文字が密に見える印象がある。また、フォントサイズは大きめの方が良い。ただ、可能な限りたくさんの情報を載せたいと思う執筆者の立場や、そういうものを求める読者の立場もある。注釈が冗長にならないよう、本文の内容は概略に留め、目録や資料集を別立てで作成するのはどうか。

→(回答)研究論文のような注釈は付けないという意見もある。難解な専門用語に対する最低限の注釈は必要かと思うが、注釈を付ける基準は今後詳細な検討が必要である。

・(要望)刊行物があまりにも厚く重いと手に取ってみたいという気持ちが湧かない。また、

蔵書として書棚に飾る分には箱があってもいいかと思うが、日常的に使う場合は箱やビニール製の保護カバーの存在は煩わしく感じる。

<議題>

1. 新編立川市史刊行計画（案）について（資料8）

事務局より資料番号8に基づき説明し、検討の経過と予定について次の通り説明した。新型コロナウイルス感染症の影響などで調査に遅れが出ていることを受け、昨年度には3年延長案を作成し、令和6年度までにすべての資料編の刊行を完了する案で一度合意を得た。しかし、各部会の意見を集約したところ、進捗状況を鑑みると3年延長案でも難しいとの意見が出たため、今回の4年延長案を作成した。先日開催した編集委員会議ではこの延長案を各部会に持ち帰り、次回の編集委員会議を年内に開催し、意見を取りまとめることで合意した。

7月11日の経営会議では、初めて市長に4年延長案を報告した。これを経て、市長選後の次回議会で報告する予定である。その後さらに12月議会で報告し、延長案を確定させる。当初、延長案の確定は3月議会を想定していたが、予算案との関係があり12月議会で確定させることとした。

【主な質疑・要望】

- ・(質問) 付属のDVDの内容はどういったものか。
- (回答) 編集委員会議でもまだ具体的な内容は決まっていない。
- ・(要望) 付属のDVDについて、データ形式や構成、電子書籍への対応、インターネット上の情報の公開・発信という点を検討しなくてはならない。
- ・(要望) デジタルデータがあると学校などの教育現場でも活用しやすい。

<その他>

- ・(意見) これまで市で発行してきた刊行物の内容に修正が必要な箇所がいくつかある。誤字脱字だけではなく、話者の認識違いがあとから発覚することもある。調査をする際過去の刊行物を根拠にすると、間違いがそのまま引き継がれてしまうことになる。今後対応を考えなければならない。
- ・(意見) 情報の間違いは可能な限り早く修正し、新しく編集する刊行物でそれを指摘していくべきである。

<終了 午前11時00分>